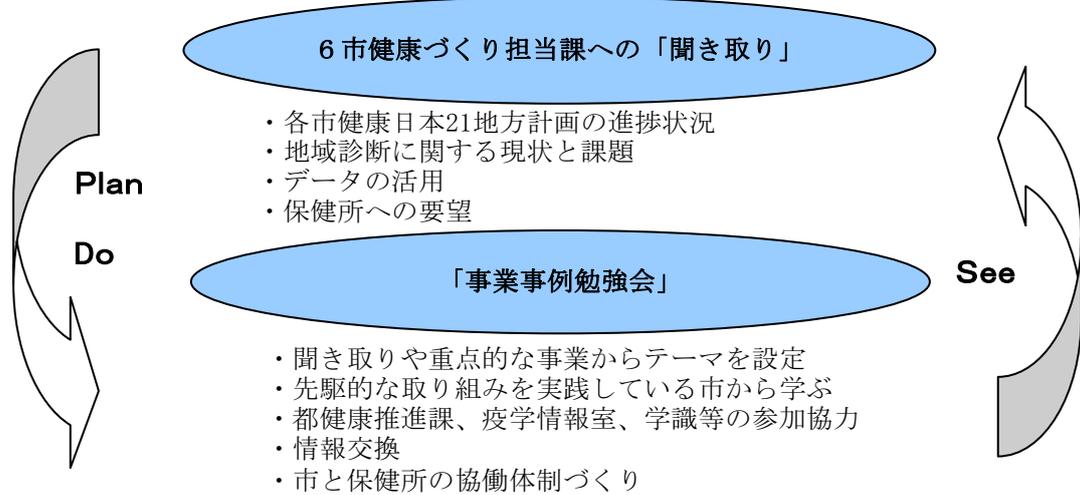


保健所における健康づくり推進事業 ～地域課題に協働して取り組むために～	
北多摩南部保健医療圏 多摩府中保健所	
実施年度	開始 平成18年度、 終了(予定) 平成20年度
背景	<p>多摩府中保健所では、平成15～17年度の課題別地域保健医療推進プランにおいて、各市の「健康日本21地方計画」策定にあたっての支援体制整備に取り組み、「地域の実情や環境に即した具体的な健康づくり」「市や関係機関と保健所の連携」「地域に存在する保健・健康データの活用」などが特に重要であると課題抽出し、さらなる継続した取組に着手しようという機運が高まった。</p> <p>また、社会的には、平成20年4月からの医療制度改革の実施が決定されており、「予防重視の生活習慣病対策」は、大きな社会的取組になることが見込まれていた。都民の生涯にわたる健康づくりの推進がますます重要とされる中、「生活習慣病」に特化して、市と協働して取り組む「保健所における健康づくり推進事業」を課題別推進プランとするに至った。</p>
目標	<p>【大目標】各市の状況に応じた「健康づくり」の推進</p> <p>【事業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各市の地域診断を「生活習慣病」のデータ分析を中心に実施し、施策や事業実施に反映できる仕組みを検討する。 ○ 各市の状況に応じた支援ができるよう保健所機能を再考し、整備強化を図る。 <p>【20年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活習慣病予防対策を中心とする保健施策に役立つデータを機能的・継続的に収集・分析・活用できる「健康プロフィールシート」を作成し、市と保健所が協働して地域診断を推進できる体制の整備を図る。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「聞取り」の実施：圏域6市の保健衛生主管課等から、各市の生活習慣病予防に関わる事業の取組と課題について聞取りを実施 2 「事業事例勉強会」の実施：聞取りで出された課題解決に向けて、市の健康づくり事業で扱う身近なデータについて分析・検討等を行い、各市の事業におけるデータ活用を推進 3 職域保健（青壮年層）と地域保健の連携に伴う課題整理：平成18年のモデル事業「心の健康づくり事業」について、多摩東部地域産業保健センターを中心に市保健衛生主管課、保健所が協働し継続して取り組み、特に、職域保健（青壮年層）健康管理体制等に関わる情報収集を実施 4 「健康プロフィールシート」を作成：市と保健所が協働し、地域診断に取り組むための共通ツールを作成
評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成18～19年度は「聞取り」と「事業事例勉強会」を実施した。各市においては、データを活用した市民への広報活動など勉強会の内容を生かした事業展開がなされるなど、当事業が地域の健康づくりに寄与することにつながった。 ○ 平成20年度は各市のシート作成担当者の選任を行い、勉強会や聞き取りを継続し、検討を重ねてシートを完成させた。さらに、今後の各市の地域診断実施にあたり、シートの活用を継続する体制整備（データ更新・勉強会の継続等）を行った。成果物がさらに進化を遂げていけるような道筋をつけることができた。 ○ 保健所は地域の健康情報等の収集・分析・発信を恒常的に各市や関係機関に担保していく情報センター機能を発揮していく必要があり、各市からもその機能を求められている。 ○ 地域保健と職域保健の連携には「地域産業保健センター」が重要な役割を果たし、センター自体の機能強化が必要であることが再認識された。
問い合わせ先	<p>多摩府中保健所 企画調整課 企画調整係</p> <p>電話 042-362-2334</p> <p>ファクシミリ 042-360-2144</p> <p>E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp</p>

1 保健所における健康づくり推進事業の構成

ステップ1

- 各市の健康づくり事業における地域診断の現状と課題抽出
- 事業で扱う具体的なデータの勉強会による業務改善の進展

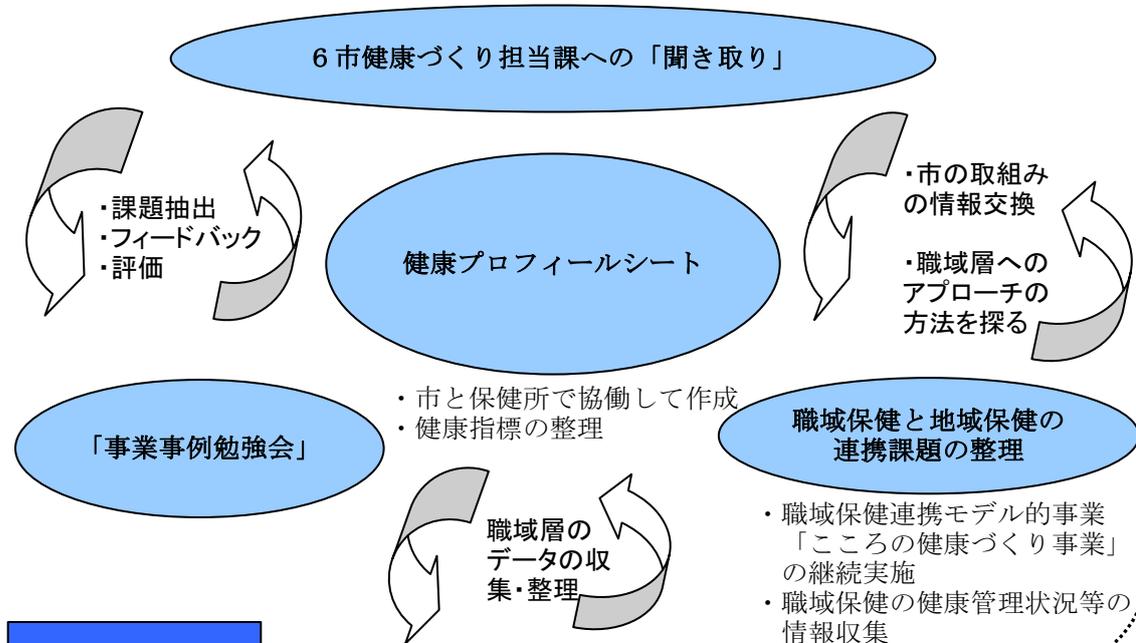


課題

- データ活用の日常業務化: 誰もが健康データを普通に活用できるようになることを目指す
- データ管理・分析の手法の継続・継承

ステップ2

- 地域診断の基礎的なデータを集めた「健康プロフィールシート」の作成
- 健康プロフィールシートを活用した取組みを通じて地域診断の継続とその結果を施策に反映する体制作りを行う



2 事業内容

(1) 圏域内6市保健衛生主管課等への「聞取り」で課題の抽出

平成18年度～20年度に「聞取り」を行い、市の保健衛生主管課から健康づくりの取り組み状況と課題について情報収集を行った。聞取りの目的は、本事業への反映と評価、各市との協働体制づくりであるが、多くの市職員の協力が得られ課題抽出や情報交換に有効な機会となった。

聞取り項目	聞取り結果から得られた課題等		
	平成18年度	平成19年度	平成20年度
1)健康日本21地方計画の評価	具体的な指標がなく日常業務との乖離がある。	評価会議の実施検討や評価指標の検討が行われている。	中間評価等に向けた検討が行われ、評価が難しい指標の問題が浮上している。
2)生活習慣病に関するデータの蓄積・管理状況	蓄積、管理状況は6市6様。データを扱う作業が膨大。	システム管理：5市、基本健診5年分蓄積：4市、経年変化を見られる：3市	システム管理が6市ともに入ることになった。経年変化の分析が各市とも課題。
3)生活習慣病に関するデータの分析・活用	老人保健事業報告等は定例報告の集計にとどまり、分析や活用が進まない。	健康教育や普及啓発にがん検診データを活用する市が増えたが、分析は難しい。	健康教育等への活用はあるが、事業の効果・優先順位の根拠などは手付かず。
4)庁内部署との連携(ポピュレーションアプローチに必要なデータ把握)	必要性は感じているが行えていない。	データのやりとりができる連携はされていない。	データのやりとりができる連携はされていない。
5)特定健診・特定保健指導の実施体制		基本健診データを特定保健指導の階層化に活用したり、医療費分析の開始した市がある。	特定健診を実施後、階層化して保健指導を実施するまでにブランクがある。
6)青壮年層(職域保健)が持っているデータの把握		産業部門の担当課との情報交換や職域保健に関するデータの把握は殆どない。	健康づくり事業の連携はあるが職域層への健康把握は進んでいない。
7)手持ちデータで明らかにしたいこと	データの効果的な活用のイメージができない。医療費分析、がん検診、地区活動	分析、効果的な活用、処理・加工の方法、見方や資料作り	医療費分析、地域の健康課題の発見

(2) 「事業事例勉強会」は課題解決や市の要望に沿ったテーマ・内容で実施

18年度：保健衛生データの活用意義を具体的な事業を通して勉強した。業務の改善に役立てた市も多くデータ活用の意識が高まった。

19年度：パソコン入力等を通じてデータを扱い、グラフに慣れることで日常業務でデータ活用が進むことを目指した。普及啓発等へデータ活用する例が増えた。

20年度：市と保健所で協働して健康プロフィールシートを作成するために勉強会を実施した。この取り組みを通じて、市と保健所が地域診断を継続するための体制づくりができた。

18年度 「事業事例勉強会」	1回「データ活用」の導入 2回「がん検診データ」を分析し施策化するためには 3回「がん検診の普及啓発」先駆的な取り組み事例から学ぶ 4回 20年度医療制度改革に向け「基本健診」の現状を知る 5回 20年度医療制度改革に向け「国保医療費」の現状を知る
19年度実績 「事業事例勉強会」	1回「特定健診・特定保健指導」のねらい・実施計画作りの階層化 2回「がん検診データ」からのグラフ作りの演習と分析の実際 3回「がん検診精度管理事業」のデータから地域を見る
20年度実績 「事業事例勉強会」	1回 健康プロフィールシート作成勉強会「地域の健康状況を客観的に見よう」 2回 「健康プロフィールシートに載せる指標の検討」 3回 「健康プロフィールシート完成に向けた検討」 4回 「健康プロフィールシートの活用方法」

(3) 健康づくりに重要な職域保健(青壮年層)と地域保健の連携を推進

生涯を通じた健康づくりを支援するためには地域保健における青壮年層(職域保健)への働きかけが課題になっている。各市、保健所共に職域保健との接点が少ないため、平成19年度～20年度は職域保健の情報収集、モデル事業を継続させて地域保健との連携推進を行った。

◇ 「心の健康づくり」を通じた職域保健と地域保健との連携の実際

◇ 職域保健(青壮年層)の健康管理体制に関わる情報収集

(4) 健康プロフィールシートを作成して圏域の共通ツールとして活用

◇ 健康プロフィールシートとは？

【特徴】

- ・圏域各市毎の地域診断シート
- ・生活習慣病予防に必要なデータを収集
- ・身近にある事業概要やデータ集などの既存のデータからピックアップ
- ・健康づくりに欠かせない基礎データを集め、データベース（エクセル入力表）に入力して誰にでも見やすい「地域の健康状況」のグラフのシート化

【効用】

- ・地域の健康状況を一目で把握でき、簡単な説明ができる。
- ・地域診断、事業評価、普及啓発資料等の基礎データとして抽出・加工ができる。
- ・職員間で情報の共有が進む。

◇ 6市と保健所の体制

【健康プロフィールシート担当者】

<各市>保健衛生主管課及び国保課から担当者を出し、1年間継続して同じ人が勉強会の参加、連絡調整を行った。
 <保健所>企画調整係、保健医療係（歯科医師、歯科衛生士）、保健栄養係（管理栄養士）、地域保健第一・二係でPTを組んだ。

【進め方】

事務局で案を提示→保健所PTで検討→勉強会で検討→決定した内容で進行

	保健師	事務職	管理栄養士・歯科衛生士等	学識者、研究員
武蔵野市	1名	2名（うち国保1名）		
三鷹市	1名	1名		
府中市	2名			
調布市	1名	1名		
小金井市	1名	1名		
狛江市	1名			
保健所	5名	2名	4名	2名

◇ 健康プロフィールシート載せる指標の検討

⇒ 指標の選定調査：デルファイ調査方式で「指標検討シート」による調査を実施

【デルファイ調査】専門家の個別の意見を収集し、それを相互参照した上で再度意見を収集していくプロセスを何回か経て、意見を収斂していく方法。

指標検討シートの作成



【先行例からのピックアップ】

- ・福島県東北保健福祉事務所の「地域診断シート」
- ・岐阜県本巣市「本巣市の概観」

【計画書や冊子からのピックアップ】

- ・「特定健診等実施計画書」圏域6市
- ・「北多摩南部保健医療圏保健医療福祉データ集」多摩小平保健所
- ・「事業概要」多摩小平保健所
- ・「藤内&岩室の 新版 保健計画策定マニュアル」（P128～135 基礎資料項目一覧表）（株）ライフ・サイエンス・センター発行
- ・前回の事業事例勉強会で参加者から出された指標

第1回目調査依頼



第1回目調査結果集計



- 6分野：基本情報 人口 死亡 健診・検診 医療費 介護
- 74項目：先行例、計画書等からピックアップし6分野に分類
- 4つの選択肢：「絶対必要」「必要」あまり必要ない」「必要ない」一つを選択する。
- コメントの記入：1項目毎に選択した理由を記入する。
- 回答者数：49人
 <保健師、栄養士、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、事務職>
- 回答者からのコメント数：1,284（延べ）

第2回目調査依頼



第2回目調査結果集計

- 6分野79項目：第1回目と同様
- 4つの選択肢とコメント記入：各項目に記入された第1回目のコメントを参照し、再度4つの選択肢から一つを選択し、選択した理由を記入する。
- 回答者数：45人
 <保健師、栄養士、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、事務職>
- 回答者からのコメント数：299（延べ）
- 各指標の点数化：絶対必要（2点） 必要（1点）
 あまり必要でない（-1点） 必要でない（-2点）

<1回目>健康プロフィールシート指標検討シート集計表

所属	市	職種	絶対必要	必要	あまり必要でない	必要でない	選択した理由
17	人口	3区分別人口の推移	○				(絶対必要) ・将来の健康課題などを予測できる。 (必要) ・視覚的に人口構成を把握できる。 (あまり必要でない) ・分類が大まいため。
35	死亡	高齢者(65歳以上)主要疾患別死亡(人数及び割合)		○			(絶対必要) ・地域特性を見ることができる。
40	健診 検診	基本健診受診率			○		(絶対必要) ・健康状態を踏まえた対策の検討が必要。 (必要) ・今後の健康施策の方法を検討するため。 (あまり必要でない) ・受診対象者数がもともと少ないため。

⇒ 健康プロフィールシートに載せる指標の決定

調査結果から各指標の点数化を行い、86から-57の幅で点数化した。先行例において約30の指標を盛り込んでいることを参考にし、50ポイント以上を得た31項目を決定した。

◇ 健康プロフィールシート作成勉強会での検討内容

	テーマ	内容
1回	地域の健康状況を客観的に見よう	健康指標の利用意義、指標選択の方法を学習し、健康プロフィールシート作成意図の共有と調査の合意を得る。
2回	健康プロフィールシートに載せる指標の検討	指標検討調査結果から載せる指標を決定する。健康プロフィールシートのイメージの共有を図る。
3回	健康プロフィールシート完成に向けた検討	健康プロフィールシート案を事前に各市で意見集約し、勉強会で検討した箇所を修正して完成させた。
4回	健康プロフィールシートの活用方法	担当者以外の学識経験者から健康プロフィールシートの評価と今後の活用推進と定着について意見をもらった。

⇒ 健康プロフィールシート作成勉強会の事前、事後に意見集約し、シートを修正して勉強会で合意して今年度の完成版ができた。

3 今後の取組みの継続と課題

【継続】

- (1) 健康プロフィールシートの更新
(毎年)
- (2) 勉強会の開催：健康プロフィールシートから地域診断、事業評価
(年1回)

【課題 -定着と普及-】

- ・活用機会を増やしバージョンアップを図る。
- ・内容を読み取り解説書を作成（市）
- ・圏域版の作成（保健所）
- ・保健所の情報センター機能強化



事業実施により、市と保健所が協働して地域診断を推進するための「ツール」の作成と「検討の場」を設定することができ、今後も継続した取り組み体制を整備することができた。